

令和元年度 台東育英小学校 授業改善推進プラン

第4学年 国語

1 結果の分析

- ・話し合いの内容を落とさないように聞き取る力は身に付いている。
- ・第3学年配当漢字を読むことは、おおむね身に付いている。
- ・指定された長さで、2段落程度の文章を書くことに課題が見られる。
- ・第3学年配当漢字を書くことに課題が見られる。
- ・ローマ字を用いて文章を書くことに課題が見られる。

第4学年 国語	本校	全国平均
話すこと・聞くこと	68.0	62.0
書くこと	58.0	56.2
読むこと	77.0	67.9
言語事項	71.7	70.6

2 課題と改善策

	課題	課題に対する改善策	今年度の成果(○)と課題(△) 来年度に向けての改善策
国語	<ul style="list-style-type: none">・指定された長さで、2段落程度の文章を書くこと。(書くこと)・第3学年配当漢字を書くこと。(言語)・ローマ字の読み書きができるようにすること。(言語)	<ul style="list-style-type: none">・校内文集執筆等と関連付けながら、書く内容の中心をはっきりさせること、それをもとに段落をつくることを授業で繰り返し指導する。・新出漢字の学習では、字形や筆順だけでなく、成り立ちや意味についても指導する。また、ミニテストやテストを計画的に実施し、練習と活用の機会を増やしていく。・他教科での調べ学習や、校内文集作成等、パソコンを使ったローマ字入力をする機会を増やし、日常的にローマ字を活用できるようにしていく。	

3 改善策の検証

- ・めあてに即した短作文が書けたか、児童の相互評価も取り入れながら確認する。
- ・東京ベーシックドリル、区フォローアップシートや単元テストを活用し、9割以上の児童の正答率100%を指標として確認する。
- ・家庭学習の状況を常に把握しながら、ミニテストを行い、学習の定着を確認する。不十分な場合は個別に指導し、一人一人の定着を確認する。

令和元年度 台東育英小学校 授業改善推進プラン

第4学年 算数

1 結果の分析

- ・整数の加減乗除や小数、分数の加法、減法の技能は、おおむね身に付いている。
- ・文章内容を読み取り、□を使った式を用いることについて、習熟状況に差が見られる。
- ・目盛りの大きさや最大値に着目して棒グラフをかくことに課題が見られる。

第4学年 算数	本校	全国平均
関心・意欲・態度	74.7	67.4
数学的な考え方	71.8	58.6
技能	84.8	78.4
知識・理解	81.0	75.6

2 課題と改善策

	課題	課題に対する改善策	今年度の成果(○)と課題(△) 来年度に向けての改善策
算数	<ul style="list-style-type: none">・整数ー小数第一位の計算をすること。(数と計算)・数の相対的な大きさについて理解すること。(数と計算)・□を使った式を用いること・目盛りの大きさや最大値に着目して棒グラフをかくこと。 (数量関係)	<ul style="list-style-type: none">・例えば、$5 - 1 \cdot 2$の計算の仕方では、5を0.1が50個あると考える必要がある。このように単位の考えを使って計算の工夫をすることを、授業の中で必ず扱うようにする。・数の相対的な大きさについて指導する際は、位取り表や模擬貨幣等を活用し、ある位の単位に着目してそのいくつかとみる見方を身に付けられるようにする。・□を使えば、減法、除法を用いる場面をそれぞれ加法、乗法の式で表せることを指導し、順思考で表現することのよさを実感させる。・グラフの指導では、いろいろな表し方をしたグラフを比較し、目的に合った目盛りの大きさを考える活動を設定するようにしていく。	

3 改善策の検証

- ・東京ベーシックドリル、区フォローアップシートや単元テストを活用し、9割以上の児童の正答率100%を指標として確認する。
- ・単元前後のレディネステストやミニテストを活用し、学習のめあてが理解されているか確認する時間を設ける。不十分な場合は、放課後学習を活用して個別指導し、一人一人の定着を確認する。
- ・家庭学習の状況を常に把握しながら、個に応じた指導を行い、一人一人の定着を確認する。

令和元年度 台東育英小学校 授業改善推進プラン

第5学年 国語

1 結果の分析

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」については、全国平均正答率を4～10ポイント上回っている。
- ・「読むこと」は昨年度よりもさらに伸びている。読解力を高める指導を重点的に行ってきた効果もあると考える。
- ・漢字の習得では、身に付けている児童と身に付けていない児童の差が大きい。
- ・正答率では、多くの児童が目標値（70%）を超えているが、60%未満の児童が10%おり、個別の指導が必要である。

第5学年 国語	本校	全国平均
話すこと・聞くこと	88.0	83.8
書くこと	65.2	60.9
読むこと	79.2	69.4
言語事項	79.7	78.5

2 課題と改善策

	課題	課題に対する改善策	今年度の成果（○）と課題（△） 来年度に向けての改善策
国語	<ul style="list-style-type: none">・ 2段落構成で文章を書くことや書こうとすることの中心を明確にして文章を書くことができない。（書くこと）・ 第4学年配当漢字の読み書きが不十分な児童がいる。（言語についての知識・理解）	<ul style="list-style-type: none">・ 日記を書いたり、学校行事の後に作文を書いたりする等、文章を書く機会を意図的に作る。その際、段落を分けることや書きたい中心をはっきりさせることを意識させる。・ 国語の作文の「書く」では、書きたいことをはっきりさせること、文章構成のメモ作りをしっかりと行うことを徹底して取り組む。・ 朝学習の時間に区漢字検定に取り組む時間を作ったり、宿題で出したりする機会を定期的に入れる。練習だけではなく、テストで習熟を確認し、間違えた漢字を繰り返し練習させる。	

3 改善策の検証

- ・ 東京ベーシックドリルや単元テスト、10問テストを活用し、9割以上の児童の正答率100%を指標として確認する。
- ・ テストの結果が不十分な場合は、個別に指導し一人一人の定着を確認する。
- ・ 朝の1分間スピーチで、話し手の意図を考えた感想を述べる場合、スピーチの内容について、より詳しく知るための質問を促していく。
- ・ 家庭学習の状況に応じてミニテストを行い、学習の定着を確認する。不十分な場合は、個別指導し、確認テストで定着を確認する。

令和元年度 台東育英小学校 授業改善推進プラン

第5学年 社会

1 結果の分析

- ・領域別に見ると「安全を守る活動」については、昨年度、地域の消防団の方や消防士の方を招き、授業の中で直接話を聞く機会を設けた。こうした学習の効果があり、安全なくらし（火事）についての正答率が目標値を7ポイント上回った。一方で、「先人の働き」では、目標値を4ポイント下回っている。
- ・観点別では、「社会的な思考・判断・表現」「知識・理解」については目標値を大きく上回っている。一方、「資料活用の技能」については目標値並であり、今後高めていく必要がある。
- ・正答率分布グラフから見ると、正答率が40%未満の児童が18%程度おり、個別の指導が必要である。

第5学年 社会	本校	全国平均
関心・意欲・態度	61.5	58.5
思考・判断・表現	60.9	58.0
資料活用の技能	55.5	53.3
知識・理解	62.5	60.0

2 課題と改善策

	課題	課題に対する改善策	今年度の成果(○)と課題(△) 来年度に向けての改善策
社会	<ul style="list-style-type: none">・「先人の働き」では地域の地形の特徴について、「ごみしよりと利用」では廃棄物の収集の工夫について、資料から読み取る問題の理解が不十分である。・地図上から、地図中の目盛りを使って2つの地点間の距離を求める問題や土地の断面図を読み取る問題の習得が不十分である。	<ul style="list-style-type: none">・单元ごとの学習で、図や表、グラフなどの資料を使い、分かったことや気付いたことなどを発言する機会を多く取り入れ、丁寧に指導していく。・社会科の学習や朝学習で意図的に地図帳を活用する機会を作ったり、縮尺や等高線を読み取る活動を行ったりとする。・総合的な学習の時間に霧ヶ峰について調べる際、東京からの距離や東京との高低差を地図から調べる活動を取り入れる等、地図を活用する機会を増やす。	

3 改善策の検証

- ・東京ベーシックドリルや单元テストを活用し、全ての児童が平均正答率90%を達成するよう、定着を図る。
- ・デジタル教科書のグラフを活用するとともに、授業中の発表やノートの記述が、学習のめあてに即しているか確認しながら、授業を進める。
- ・家庭学習の状況を常に把握しながら、学習の定着を確認する。不十分な場合は、朝学習等の時間に個別に指導し、一人一人の定着を確認する。

令和元年度 台東育英小学校 授業改善推進プラン

第5学年 算数

1 結果の分析

- ・観点別に見ると全観点で全国平均を上回っている。
- ・ひし形などの作図の問題では、61.8%で全国正答率を下回っている。
- ・論理的に説明する力をみる問題の正答率が20%未満で、不十分である。

第5学年 算数	本校	全国平均
関心・意欲・態度	58.8	56.0
数学的な考え方	64.5	56.7
技能	74.3	69.9
知識・理解	69.8	67.4

2 課題と改善策

	課題	課題に対する改善策	今年度の成果(○)と課題(△) 来年度に向けての改善策
算数	<ul style="list-style-type: none">・コンパス、分度器などを使って作図する際、どの部分を測定すればよいかを判断し、的確に道具を使えるようにする。・作図が的確にできるようにする。・論理的に説明する数学的な考え方の能力を向上させる。	<ul style="list-style-type: none">・コンパス、分度器などを使っての作図では、学力向上推進ティーチャーがクラスに入り、きめ細やかな指導をするとともに、図形の性質や構成要素に着目し、観察や構成などの活動を通して実感的な理解を深める。・第5学年の合同な図形の単元で、それぞれの図形の特徴を振り返り、その定義、性質に基づいて頂点を決められるようにすることで全員が作図できるようにする。・問題解決型の授業を基本とし、自力解決の時間を十分とるとともに、根拠をもとに相手に説明できるようにする。また、具体的な場面(図)と式との対応を常に意識させ、一方で他を説明できるようにする。	

3 改善策の検証

- ・東京ベーシックドリルや観点別テスト、単元テストを活用し、全ての児童が平均正答率90%を達成するよう、定着を図る。
- ・単元前後のレディネステストやミニテスト、各学期末のまとめのテストを活用し、定着を確認する。
- ・生活、学習パワーアップカードを各学期に活用し、家庭学習の定着の様子を確認する。不十分な場合は、放課後学習を活用し、定着を確認する。

令和元年度 台東育英小学校 授業改善推進プラン

第5学年 理科

1 結果の分析

- ・知識・理解が、全国平均と比べ0.3%低い。
- ・観察・実験における解釈、方法、予想した根拠などを考える力が不十分である。
- ・1年間の植物の成長、物の体積と温度、水の姿、物の温まり方、電気の働きについての理解が不十分である。

第5学年 理科	本校	全国平均
関心・意欲・態度	70.8	65.6
思考・表現	65.5	63.9
観察・実験の技能	78.8	78.3
知識・理解	69.7	70.0

2 課題と改善策

	課題	課題に対する改善策	今年度の成果(○)と課題(△) 来年度に向けての改善策
理科	<ul style="list-style-type: none">・観察・実験における解釈、方法、予想した根拠などを考える力を付けること。 (思考・表現) (観察・実験の技能)・1年間の植物の成長、物の体積と温度、水のすがた、物のあたたまりかた、電気のはたらきについての理解を実生活での経験を想起して深めること。 (知識・理解)	<ul style="list-style-type: none">・既習事項や日常経験を振り返る時間を設け、予想を立てさせ、その根拠を考えるようにする。また、予想を確かめるための観察・実験方法を考え、予想と観察・実験の結果との関係が理解できるようにする。・水や空気の対流の学習では、家庭科の調理実習等(ご飯と味噌汁)の身の回りの事象学習と関連させ、水や空気の対流について、実生活での理解を深める。・知識、理解の力を高めるためには、繰り返しの学習が必要なため、授業の導入で毎回、既習事項の確認を行ったり、ミニテストを定期的に行ったりしながら、学んだことを確実に身に付けられるようにする。	

3 改善策の検証

- ・東京ベーシックドリルや観点別テスト、単元テストを活用し、全ての児童が平均正答率90%を達成するよう、段階的に定着を図る。
- ・授業中の発表や観察カード、実験への取り組み方などが、学習のめあてに即しているか確認する時間を設ける。不十分な場合は個別に指導し、一人一人の定着を確認する。
- ・単元学習後のミニテストや各学期末のまとめのテストを活用し、定着を確認する。

令和元年度 台東育英小学校 授業改善推進プラン

第6学年 国語

1 結果の分析

- ・観点別に見ると、「話すこと」「聞くこと」「読むこと」「言語事項」については、全国平均を5ポイント以上回っている。
- ・「書くこと」については、平均を2ポイント程、下回っている。昨年度の課題であった、自分の考えをまとめて書くことについては平均を超えたものの、よりわかりやすいように接続語を用いて文を分けたり、記述の仕方を工夫したりするところに課題が見られる。
- ・第5学年配当漢字の読み書きは身に付いている。

第5学年 国語	本校	全国平均
話すこと・聞くこと	78.0	72.3
書くこと	53.0	54.5
読むこと	89.9	81.7
言語事項	63.6	53.5

2 課題と改善策

	課題	課題に対する改善策	今年度の成果(○)と課題(△) 来年度へ向けての改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・図表やグラフを用いた目的や、情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の工夫をとらえる力が不十分である。 ・文と文との意味のつながりを考えながら接続語を適切に用い、分かりやすく内容を分けて書く力が不足している。 (書く) ・目的に応じて、質問を工夫する力が弱い。 (話す・聞く) 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み取って考えをまとめる活動に加え、相手意識や目的意識をもって、図表やグラフを用いて考えをまとめたりする活動を、国語に限らず、他教科でも適宜取り入れる。 ・書く活動の際には、適切に接続語を用いるなど、相手意識をもって書くことで、読み手に分かりやすい文章にまとめることを意識させる。 ・日直の1分間スピーチを継続して行う。聞き手の際には、スピーチの内容についてより詳しく知ることを目的とし、工夫して質問するよう指導する。 	

3 改善策の検証

- ・東京ベーシックドリル、区のフォローアップシートや単元テストを活用し、9割以上の児童の正答率100%を指標として確認する。
- ・授業中の発表やノートの記述が、学習のめあてに即しているか確認する時間を設ける。不十分な場合は、個別指導し、再度テストを行って定着を確認する。
- ・生活・学習パワーアップシートを活用し、家庭学習の状況を常に把握しながらミニテストを行い、学習の定着を確認する。不十分な場合は、個別に指導し、一人一人の定着を確認する。

令和元年度 台東育英小学校 授業改善推進プラン

第6学年 社会

1 結果の分析

- ・観点別に見ると、全ての観点で、全国及び区の平均正答率を上回っている。
- ・「国土の自然などの様子」「工業生産」の単元では、ポイントが下回っているが、その他の単元では概ね平均を上回っている。
- ・「国土の自然などの様子」の単元での、世界の中の国土についての問題では6～7ポイント低くなっているが、日本の国土と人々の暮らしについての問題では、10ポイント程高くなっており、問題によって差が見られた。
- ・正答率度数分布表で見ると、8割以上正解している児童が3割強いるものの、5割以下の児童も1割強程度いるので、個別の支援が必要である。

第6学年 社会	本校	全国平均
関心・意欲・態度	66.5	62.7
思考・判断・表現	69.2	65.5
資料活用の技能	70.2	66.6
知識・理解	67.0	63.9

2 課題と改善策

	課題	課題に対する改善策	今年度の成果(○)と課題(△) 来年度へ向けての改善策
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・「国土の自然などの様子」の世界の中の国土について問われている問題の正答率が全国平均を6～7ポイント下回っており、世界の主な海洋や大陸の位置などについての理解が不足している。 ・自動車をつくる工業の中で、特に溶接工場の作業についての理解が不足している。 ・正答率が5割以下の児童が1割強おり、特に知識、理解の力が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の中の国土については、単元終了後も授業で世界地図や地球儀を積極的に活用する。 ・自動車をつくる工業については、単なる暗記にならないよう映像資料を活用するなどして、実際の見学に近い形で経験できるようにする。 ・知識、理解の力を高めるためには、繰り返しの学習が必要なので、授業の導入で毎回、既習事項の確認を行ったり、ミニテストを定期的に行ったりしながら、学んだことを確実に身に付けられるようにする。 	

3 改善策の検証

- ・東京ベーシックドリル、区のフォローアップシートや単元テストを活用し、9割以上の児童の正答率100%を指標として確認する。
- ・単元後のミニテスト等を活用し、学習のめあてが理解されているか確認する時間を設ける。不十分な場合は、個別に指導し、一人一人の定着を確認する。

令和元年度 台東育英小学校 授業改善推進プラン

第6学年 算数

1 結果の分析

- ・領域別に見ると、「数と計算」「量と測定」「数量関係」ともに、全国平均を大きく上回っている。図形はわずかながら全国平均を上回っている。
- ・問題形式では、記述式、短答式においては、全国平均を上回っている。選択式においては、わずかながら全国平均を下回っている。根拠をもって答えを出せるようにしたい。

第6学年算数	本校	全国平均
数と計算	71.9	63.2
量と測定	60.1	52.9
図形	78.6	76.7
数量関係	75.0	68.3

2 課題と改善策

	課題	課題に対する改善策	今年度の成果(○)と課題(△) 来年度へ向けての改善策
算数	<ul style="list-style-type: none">・図形の性質や構成要素に着目して、ほかの図形を構成すること (図形)・図形の面積の求め方として式を解釈し、適確に説明することを苦手とする児童が多い。 (量と測定)・ヒストグラムから、資料の特徴や傾向を読み取る力が弱い。 (数量関係)・除法の式の意味を理解していない児童が多い。 (数と計算)	<ul style="list-style-type: none">・対辺が平行であるなどの図形の性質や、図形の構成要素である辺や角の大きさに着目して図形を捉えられるよう、用語の定義を授業で丁寧に行う。・ペア学習を意図的に取り入れ、具体的な場面と式との対応を常に意識し、自分の言葉で説明していく活動を多く取り入れる。・デジタル教科書等を効果的に活用する中でグラフを示し、資料の特徴や傾向を知るのに、ヒストグラムを活用するとよいことを確認する。・立式するとき、数直線や図等、立式の根拠を明確にする。自分なりの根拠をもって演算決定できるよう繰り返し指導する。練習問題で繰り返し活用させ、その定着を図る。	

3 改善策の検証

- ・東京ベーシックドリル、区のリソースシートや単元テストを活用し、9割以上の児童の正答率100%を指標として確認する。
- ・単元前後のレディネステスト等を活用し、学習のめあてが理解されているか確認する時間を設ける。
- ・生活・学習パワーアップシートを活用し、家庭学習の状況を常に把握しながらミニテストを行い、学習の定着を確認する。不十分な場合は、個別に指導し、一人一人の定着を確認する。

令和元年度 台東育英小学校 授業改善推進プラン

第6学年 理科

1 結果の分析

- ・観点別に見ると、「関心・意欲・態度」「思考・表現」「技能」「知識・理解」のすべての観点で全国平均を上回っている。特に「思考・表現」では、全国平均を6、5ポイント上回っている。これは、昨年度の課題に対する改善策「観察・実験を伴う授業では、既習事項や日常経験を振り返る時間を設け、予想を立てさせ、その根拠を考えるようにする。」を1年間取り組んだ成果である。今年度も続けていきたい。
- ・問題の内容別に見ると、顕微鏡の使い方が全国及び区の平均正答率を下回っている。

第6学年 理科	本校	全国平均
関心・意欲・態度	69.9	62.1
思考・表現	64.1	57.4
技能	37.7	37.3
知識・理解	69.6	62.8

2 課題と改善策

	課題	課題に対する改善策	今年度の成果(○)と課題(△) 来年度へ向けての改善策
理科	<ul style="list-style-type: none">・顕微鏡の使い方の理解が不十分である。 (観察・実験の技能)・実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる力に個人差がある。 (思考・表現)	<ul style="list-style-type: none">・顕微鏡を使う単元での学習では、講師の先生と連携し、個別に顕微鏡を扱う時間を保証し、操作の手順の意味を確認しながら、正しく操作できるようにする。・知識を活用して説明するとき、自分の言葉で一人一人が説明できるようにするため、予想、実験、結果、考察の流れを徹底する。特に、結果から考えられることをまとめる際、講師の先生と2つのグループを分担し、効率的に個別指導を取り入れるなど、時間を十分に確保し、自分の言葉でまとめ、伝えられるようにしていく。	

3 改善策の検証

- ・区のリポートシートや単元テストを活用し、9割以上の児童の正答率100%を指標として確認する。
- ・授業中の発言や観察カード、ノートへの記述などが、学習のめあてに即しているか確認する時間を設ける。また、ノートの記述の様子を個々に確認し、不十分な場合は個別指導を行うことを通して、逐次、定着を確認する。